

＜今日の説教のポイント —創世記3章—＞

①聖書の読み方 — 自己流で読むのではなく、まず耳を傾けること！

面白い話ですね。読む人それぞれで色んなことを考えられるでしょう。しかし、信仰の書である聖書は、その箇所が何を言おうとしているのかにまず耳を傾けることが大事です。その時に、自分で考えつくことを超えた、より深い内容に出会えるからです。教会の礼拝に出るのもそのためです。では、今日の箇所を見ていきましょう。

②今日の箇所を正しく理解するためには2章16～17節が大事。

この箇所だけ読んで思い巡らす前に、まず2章16～17節を読んでみましょう。すると、蛇がどれだけ巧みな言い回しをして女を欺こうとしているか分かります(1節)。また蛇だけが悪いのでもありません。女もまた神様の言葉を変えているからです(2-3節)。人間は禁ぜられた実を食べた時に罪に墮ちたと考えがちですが、あやしくなってきましたね。

③「善悪の知識の木」の意味を間違ってはならない。

「善悪の知識の木」(2:17、口語訳聖書では「善悪を知る木」)の意味も間違いやすいです。「何が善で、何が悪かを分かるようになる木」という意味ではありません。「何を善とし何を悪とするかを、自分で決めるようになる木」を意味しています。人間は神ではありませんから、そうなると予期せぬ事態が起こるものです。蛇が告げた「神のように」はならず「恥じる」ようになったことがよくそれを表しています(7)。

④神様は弁解する機会を与えて下さるお方。そこで何を語るかが鍵！

神様は神様ですから、全てを知っておられたでしょう。しかしすぐに叱るのではなく、人間に弁解する機会を与えて下さいました(9以下)。そこで人は自分の罪を認めていれば、その後の事態は変わっていたでしょう(ルカ福音書15章：罪人の立ち帰りを喜び給う聖書の神!)。創世記3章でも、「樂園追放」と呼ばれる最後の箇所をよく読むと、むしろ罪を犯した人間をなおも愛し守り給う神様であることが分かって来るのです。この神様と出会えること、それが聖書の最大の魅力です！